２　地理歴史・公民

学校番号	１０８

平成３１年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	日本史Ｂ	単位数	５単位	年次	３
使用教科書	「詳説日本史」　（山川出版）						
副教材等	「詳録新日本史史料集成」（第一学習者）・「最新日本史図表」（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象の原因と結果のつながりを意識する視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方や世界との関わりを考える。
・事前に教科書を読んでおくこと。細かい知識を身につける前に時代の大まかな流れをつかんでおく。授業の内容に集中することはもちろんであるが、説明の中で重要だと思ったり、疑問に感じたことをメモするなど自分なりの工夫を加えてほしい。プリント・ノートが黒板の丸写しでなく、自分なりのオリジナルになるよう心がけてほしい。

２　学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・日本の歴史を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、現在の日本の有りようを意識し主体的に行動する市民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	我が国の歴史に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究し,国際社会に主体的に生き国家･社会を形成する市民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし,国際環境と関連付けて多面的･多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め,その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史に関する諸史料を収集し,その史料から情報を適切に読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史についての基本的な事柄を，国際環境と現代社会に関連付けて総合的に理解し，その知識を身に付けている。
評価方法	・ワークシート ・プリント提出 ・レポート	・定期考査 ・レポート	・定期考査 ・ワークシート	・定期考査 ・プリント提出

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	日本文化のあけぼの	文化の始まり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権	○	○ ○ ○	○	○	a: 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることがで、その上に成り立つ日本の原始社会に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b：水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を弥生土器や発掘された農具から考察し、適切に表現している。 c:小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、『魏志』倭人伝などの文献資料に基づき、国内外の情勢を踏まえてその社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d：ヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察し、中国及び高句麗・新羅・百済など朝鮮半島の情勢との関連、文字や仏教など大陸文化の受容を踏まえ、ヤマト政権の成立について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート

	律令国家の形成	飛鳥の朝廷 律令国家への道 平城京の時代 天平文化 平安王朝の形成	○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	a：仏教の受容に伴う政治動向に着目して律令政治期の政治・社会・経済・文化に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b：大宝律令・養老律令による律令体制が整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなども踏まえて考察し、適切に表現している。 c：平安王朝の成立に関する諸資料をもとに、そこから藤原氏を中核とする政治抗争の進展と土地制度の変容の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d：蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について理解し、その知識を身につけている。真言宗・天台宗などに着目して、唐文化を受容し、密教芸術が生まれた弘仁・貞観文化の意義を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
	貴族政治と国風文化	摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士	○	 ○ ○	 ○ ○	 ○	a：摂関家の権力掌握に伴う律令体制の変容の観点から摂関政治などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b：国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達に着目して、貴族の生活・文化について考察し、適切に表現している。 c：平安時代の建築物や庭園などから、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d：国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況をし、武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート

	中世社会の成立	武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	○	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	a:武士の出現や武士の生活、鎌倉時代の出来事に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 武士の出現や武家政権の成立について、その文化や特色と関連付けながら考察し、適切に表現している。 c: 中世社会の成立に関する諸資料をもとに、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。鎌倉時代の寺社や仏像をみてその社会や文化の特徴を読み取ることができる。	定期考査 ワークシート
							d: 武士が土地の所領関係でむすびついていることを理解し、その知識を身に付けている。荘園などを武士が実力で奪いとり、力を獲得していく過程を理解し、その知識を身に付けている。東アジアの動向が日本の歴史に大きな関わりをもっていることを理解し、その知識を身に付けている。武家社会の成立と新しい文化の出現との関係を理解し、鎌倉文化の具体例や作品の知識を身に付けている。	

	武家社会の成長	幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の登場	○	○	○ ○ ○	○ ○ ○	a：中世社会が様々な勢力にわかれ争っていることや戦国大名の出現に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b：南北朝の動乱、室町時代、戦国時代のそれぞれの時代について、出来事や文化に着目しながら考察し、適切に表現している。 c：室町時代の建築物や庭園などから、その社会や文化の特徴を読み取ることができる。また史料や全国各地の史跡から戦極時代の社会や文化の特徴に関する情報を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d：鎌倉幕府が滅亡したあと、全国の武士や悪党が様々な勢力にわかれて戦ったことを理解し、その知識を身に付けている。室町幕府と東アジアの関係を理解し、その知識を身に付けている。守護大名の時代から下克上を経て戦国大名が出現してくることを理解し、その知識を身に付けている。村の自治がしだいに成長してくることを理解し、その知識を身に付けている。 室町時代の社会が現代の日本の文化の土台を生み出したことを理解し、その具体例や作品の知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

	幕藩体制の確立	織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立	○ ○	 ○	 ○ 	○ ○ ○	a：統一政権の成立にいたる過程、「鎖国」やキリスト教の日本への影響などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b：織田信長や豊臣秀吉による天下統一の過程や、徳川家康の築いた江戸幕府のシステムの特徴について考察し、適切に表現している。 c：織豊政権や徳川時代に関する史料や絵巻などの諸資料をもとに、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。交通網の発達などを調べることにより、この時期に江戸と諸地域の関係がどう形成されていくかを読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d：天下統一の過程が、ヨーロッパからの影響のもとでおこっていることを理解し、その知識を身に付けている。封建社会が百姓から年貢をとることによって成り立っていることを理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の特徴を理解し、その知識を身に付けている。江戸幕府の貿易の特徴と禁教令の関係を理解し、その知識を身に付けている。新興大名や豪商によって担われた桃山文化の特徴を理解し、その具体例や作品の知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート

二学期	幕藩体制の展開	幕政の安定 経済の発展 元禄文化	○ ○	○	 ○ ○	○ ○ ○	a:文治政治への転換から幕藩体制が安定していく時期の政治・社会・経済・文化に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。 b:文治政治への転換の背景や理由を考察し、その状況を適切に表現している。幕藩体制の安定期の状況や政策・政権担当者などを考察し、その特徴を適切に表現している。 c:史料や絵図・図表などを利用し、文治政治や幕藩体制の安定期の特徴や産業の発展、町人文化の有りようを読み取りまとめたりしている。 d:幕藩体制が安定する時の状況や政策を理解し、その知識を身につけている。農業技術の発展や諸産業の発達の背景を理解し、その具体的な有りようの知識を身につけている。文化の成立の背景を理解し、その具体例や作品の知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

	幕藩体制の動揺	幕政の改革 幕政の衰退 化政文化	 ○ ○	○ ○ 	○ ○	○ ○ ○	a: 幕藩体制がしだいに動揺していく過程や蘭学・国学の普及、民衆文化の発展などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 幕府の改革についてそれぞれの特色をおさえつつ、幕藩体制の矛盾が表面化していく過程について考察し、適切に表現している。 c: 義民伝説や地域にあった寺子屋など江戸時代の民衆の生活に関する諸資料をもとに、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:幕藩制度の矛盾の出現の理由を理解し、その知識を身に付けている。百姓一揆・打ちこわしの背景を理解し、その知識を身に付けている。幕府の改革の失敗の理由を理解し、その知識を身に付けている。異国船の接近が幕府にもたらした影響を理解し、その知識を身に付けている。町人文化の成熟の背景を理解し、その具体例や作品の知識を身に付けている。	ワークシート

三学期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア 占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本	・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と日清戦争 ・日露戦争と国際関係 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・市民生活の変容と大衆文化 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦 ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 ・55 年体制 ・高度経済成長期の経済と社会 ・冷戦の終結と日本 ・日本社会の変容	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:ペリー来航から、平成不況まで、2 年生で学習した知識をもとに、近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究する。 b: 現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 c: 近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。